

令和 4 年 5 月 29 日 (日)

朝日新聞 朝・夕

廃棄物対策課

「海なし県」から海洋ごみ減らそう

ごみ拾いの写真を投稿するスマートフォンのアプリ「ピリカ」と連動した県のサイトが今月、開設された。県内のごみ拾いの成果が一目でわかり、海洋プラスチックが環境に与える影響が指摘されるなか、「『海なし県』から海洋ごみを減らそう」と呼びかけている。

「河川や水路に流れたごみが、結局は海洋ごみになってしまう」。揖斐川流域の岐阜、愛知両県の17地区で28日、一斉に清掃活動があり、垂井町の会場で県の担当者が、参加者約110人を前に海洋ごみについてそう説

明した。

サイトに登録した岡田亜耶羽さん(36)は「1人でごみ拾いをする人も多い。活動を共有できるのはいい」。清掃に参加した垂井町立北中学校の大山七彩さん(1年)は「ウミガメがごみを食べるニュースも見た。動物が安全に暮らせる海になれば」と話した。

アプリは東京都内の環境ベンチャー企業が開発したシステム。県は今年度、関連のシステムを使い、路上の散乱ごみの分布を調べる試みも始めた。垂井町と高山市の公用車にスマホを



川沿いでごみを集める人たち＝垂井町

1合ずつ取り付け、走りながら散乱ごみを撮影。画像をAIで分析し、ごみの多い地域がわかる地図をつくる。今秋にサイトで公開する予定だ。

県のサイト名は「クリーンアップぎふ～海まで届け清流！～」。

(高木文字)

県が清掃活動支援のサイト開設